

## 自主防災活動マニュアル〔あさひが丘自治会（案）〕

自主防災活動は、地域住民による自主的な防災活動であり、住んでいる地域を住民自らが主体的に「安全で住みやすい、災害につよいまち」にするための活動です。大規模な災害が起きたときには、電話が不通になったり、道路網・電気・ガス・水道施設などが寸断され、消防などの防災関連機関の活動が制限されることが予想されます。こうした場合に備え、地域住民や企業、またその地域にある諸施設が連携協力して防災活動を行えるかたちを育てていく必要があります。

### 1. まず、「あさひが丘自治会」に想定される災害を考えてみましょう

#### (1) 洪水（地震や風水害）

(ア) 海（石狩湾）から 23.5km、千歳川から 3km 離れている

(イ) 標高が 20.6m と比較的高い

(ウ) 雨水調整池が完備されている

津波や川の氾濫およびゲリラ豪雨などによる**洪水の可能性は低い**と考えます

#### (2) 地震（内陸活断層型）

(ア) 江別市では北海道地域防災計画 地震・津波防災計画編（2021年11月）において公表されている想定地震のうち、江別市で震度が最大になると想定される**内陸活断層型の2つの地震**を想定しています。

##### (イ) 想定地震

No.	想定地震の名称	最大震度
1	月寒背斜に関連する断層の地震（内陸活断層型）	6弱～7
2	野幌丘陵断層帯の地震（内陸活断層型）	6弱～7

あさひが丘で想定される地震はいずれも**最大震度6強程度**で建物被害確率は**0～5%**となっています。

(3) 火山の噴火・・・火山がないので想定外

(4) 山火事・・・山がないので想定外

(5) 火災・・・人災としての**火災は想定しなければなりません**

(6) ブラックアウト・過去の例から**停電は想定しなければなりません**

### 2. 想定される災害は以下の通りです

(1) 自然災害・・・地震

(2) 人災・・・火災

(3) ブラックアウト・・・停電

想定される災害（一覧表）

(大項目)		(中項目)	可能性	家の損壊	家具転倒	上水断水	下水断水	停電	
自然災害	風水害 (台風、集中豪雨)	暴風	○	△	×	×	×	○	
		竜巻	△	△	△	△	△	△	
		豪雨	○	×	×	×	×	○	
		豪雪	○	△	×	×	×	○	
		洪水	×						
		崖崩れ	×						
		土石流	×						
	高潮	×							
	地震	地震	○	○	○	○	○	○	
		津波	×						
		土砂災害	×						
	火山の噴火	大きな噴石	×						
		火山灰	×						
		火砕流	×						
		土石流	×						
		火山泥流	×						
		溶岩流	×						
		火山ガス	×						
	火災	×							
	山火事	火災	×						
対策			耐震対策		飲水備蓄	用水備蓄	停電対策		
人災	火災	火災	○	○	×	×	×	○	
	ブラックアウト	停電	○	×	×	×	×	○	
	対策	優先 第1		火災予防					停電対策
		優先 第2		初期消火					
優先 第3			耐火対策						

### 3. 地震に対する備え

- (1) 家具の転倒防止のための耐震対策
- (2) 飲料水・食料の備蓄

- (3) トイレ用水の備蓄（風呂の残り湯 etc）
- (4) 災害用簡易トイレ、トイレットペーパーおよび常備薬などの日用品の備蓄
- (5) 家族同士で災害時の安否確認の伝達手段の確保、避難経路の確認など
- (6) 停電対策
  - (ア) 太陽光発電、蓄電池システム、発動発電機、ポータブル電源など自分で用意できる物を事前に用意しておく
  - (イ) 停電が長期化しそうなら自立電源に切り替える
  - (ウ) 避難時はブレーカーを落とす

※あさひが丘自治会内の家屋は平成6年(1994年)以降に建てられたもので、新耐震基準(1981/6/1以降の確認申請)であり震度6強~7程度の地震では倒壊しないレベルであることから、殆どの家屋の耐震対策は不要と考えられます。

従って、あさひが丘自治会の避難方法は「在宅避難」を第一に考えることとする。

(在宅避難については5ページ参照)

#### 4. 火災予防について（火災に対する備え）

- (1) 放火対策
  - (ア) 家のまわりに燃えやすい物を置かないこと
  - (イ) 車庫、物置などの戸締まりも忘れずに
- (2) コンロから離れない
  - (ア) 火がついている物から離れるときは必ず消すこと
  - (イ) コンロのまわりに可燃物は置かない
- (3) 寝たばこ、ポイ捨て厳禁
  - (ア) 吸殻を捨てるときは必ず水にさらす
  - (イ) 火のついたたばこは必ず消火の確認をする
- (4) 子供の火遊び禁止
  - (ア) 子どもには火の正しい使い方、恐ろしさを教えましょう
- (5) ストーブまわりの整理
  - (ア) ストーブのまわりに可燃物を近づけない
  - (イ) 近くで洗濯物を干すのも厳禁
  - (ウ) 給油は完全に火を消してから
- (6) 電気配線の整理
  - (ア) コードの上に物を載せたり、コードをまとめたり、たこ足配線をしない
  - (イ) 定期的にコンセント周りや配線を掃除する
- (7) 強風時のたき火禁止
  - (ア) 強風時や乾燥注意報時の「たき火」は危険ですので止めましょう
  - (イ) 通常時でも必ず水を用意し、完全消火の確認をする

## (8) 家庭用消火器の設置

(7) 火災の被害を最小限にするため「消火器」を備えましょう

※ここまで(1~5)は、洗い出された想定される災害とその対策です。

## 6. あさひが丘自治会自主防災活動の流れ(自分や家族が助かる「自助」ための活動)

- 
- (1) 想定される災害と、それに対する対策の洗い出し (Plan [計画])
  - (2) 抽出された対策の実行 (Do [実行])
  - (3) 実行された対策の確認 (Check [評価])
  - (4) 実行されていない対策の洗い出し (Action [改善])

※PDCAを繰り返します

## 7. 近隣の人が助かる(共助)ための活動

- 
- (1) 高齢者、障害者などの避難行動要支援者の把握 (Plan [計画])
  - (2) 避難行動要支援者の避難支援者の割り当て作成 (Do [実行])
  - (3) 防災訓練の実施、確認 (Check [評価])
  - (4) 問題点の洗い出し (Action [改善])

### 【主な共助の取組】

- 日頃から顔のみえる関係づくり
- 近所の助け合い
- 自主防災活動への参加
- 地域の防災訓練

在宅避難とは、災害が発生した際に、自宅で身の安全が確保できる場合に、避難所に向かわずに自宅で過ごす方法です。

**【在宅避難のメリット】**

- 住み慣れた家で生活できるため、ストレスや感染症の心配が少ない
- ペットと一緒にいられる
- トイレをはじめ人としての尊厳が守られる

**【在宅避難の備え】**

- 1週間分の食料・飲料水、カセットコンロなどの燃料、簡易トイレなどの備蓄をしておく
- 家具の固定やガラスの飛散防止を行う
- 非常用電源（簡易型ソーラーパネル）などを準備する
- 衛生用品（消毒用アルコール、マスク、石鹸、体温計など）を確保する

**【在宅避難の注意点】**

- 危険を感じた場合は、直ちに避難場所や避難所へ避難する
- 最新の気象情報や避難情報を入手するようにする
- ボランティアや支援団体などから支援を受けられるので、災害ボランティアセンターに相談する
- 避難所や役所の掲示板などでも支援情報が掲載されている
- 都道府県独自の支援もあるので、市区町村だけでなく都道府県の Web サイト・SNS も確認する

**【在宅避難の判断】**

- 自宅が倒壊、火災していなければ在宅避難をするのも1つの選択肢
- 避難所は三密となりやすく感染リスクが上がります